

Moodle を活用した上級日本語聴解 e ラーニングコンテンツの開発と学習者評価 —ブレンディッドラーニングモデルの構築に向けて—

篠 崎 大 司

【キーワード】

e ラーニング ブレンディッドラーニング Moodle 上級日本語 聴解教育

【要 旨】

本稿は、ブレンディッドラーニングモデルの構築に向け、留学生を対象にした上級レベルの日本語聴解 e ラーニングコンテンツを構築するとともに、その実践によって得られた学生評価の結果について述べるものである。

アンケート調査の結果、総合評価において93.9%の学習者が肯定的に評価し、本モデルが学習満足度の高い授業モデルであることが明らかになった。

はじめに

本稿は、ブレンディッドラーニングモデルの構築に向け、留学生を対象にした上級レベルの日本語聴解 e ラーニングコンテンツを構築するとともに、その実践によって得られた学生評価の結果について述べるものである。

ブレンディッドラーニングとは、e ラーニングを使ったオンライン教育と従来の対面式授業に代表されるオフライン教育を融合した授業モデルで、e ラーニングによる一斉指導と詳細な学習データに基づいた個別指導が、教師の授業負担を軽減しながら実現できる点に大きな特徴がある。

本研究は、オープンソースの LMS である Moodle を活用し、日本語能力試験（以下、日能試）1・2級の過去問題に解説動画や補助問題を加えた学習コンテンツを構築、ブレンディッドラーニングを試行し学習者評価を行った。その結果、総合評価において93.9%の学習者が肯定的に評価し、本モデルが学習満足度の高い授業モデルであることが明らかになった。

1. 先行研究

ブレンディッドラーニングは、従来の通信教育や e ラーニングにおいて問題とされていた高いドロップアウト率を克服する授業モデルとして、近年注目されている。ジョシュ・バーシン

(2006) は、ブレンディッドラーニングが企業内の社員教育に多く取り入れられ高い成果を出していると報告している。しかしながら、日本語教育においては、ブレンディッドラーニングによる授業報告はほとんどされていない。

また、Moodle を授業に導入する試みは、新城・宮田 (2009)、中溝 (2009) による報告がある。新城・宮田 (2009) では、留学生を対象にした自習用漢字学習コンテンツを構築している。中溝 (2009) では日本語未習者に対する渡日前教育として Moodle をベースにした e-learning 教材を開発し運用している。ただし、いずれも自習用という位置づけであって大学等の授業で主教材として活用できるほど十分なコンテンツを有した e ラーニングコースウェアはまだ開発されていないのが現状である。

以上を踏まえ、従来の特に国内の授業モデルを振り返ってみると、そのほとんどが直接法による対面授業 (オフライン教育) である。この場合、1 クラス20人が限度とされている^(註1)。また、たとえ20人以下であっても、授業中に学習者の理解度を正確に把握し適切な指導を施すことは必ずしも容易なことではない。一方、ブレンディッドラーニングであれば、学習者の学習状況をデータとして把握できるだけでなく、教育のルーティンな部分が教師の手から離れた分、より多くの時間を個別指導に振り向けることが可能である。また、それと同時に、大多数の学習者に一斉授業ができることにより費用対効果の向上も期待できる。

2. 本研究の目的

ブレンディッドラーニングモデルの構築に向け、以下の2点を本研究の目的とする。

- (i) 上級レベルの聴解力養成を目指した e ラーニングコンテンツの開発
- (ii) 開発したコンテンツを使ってブレンディッドラーニングの授業を実施、学習者評価によって学習満足度を検証するとともに今後の課題を明らかにする。
なお、ブレンディッドラーニングにおけるオン/オフライン教育の役割分担を、以下のように定める。
- (iii) オンライン教育 (e ラーニング) : 履修管理、一斉授業、学習者の学習進捗状況の管理
- (iv) オフライン教育 (教師) : 個別指導、学習アドバイザー、メンター、評価。

3. コースデザイン

日能試の過去問題に、動画解説と復習問題といったオリジナルコンテンツを加えてコンテンツを構築した。

3-1. コース概要

コース概要は以下のとおりである。

- (i) 対象：日能試2級レベルの日本語学習者。
- (ii) 目標：日能試1級レベルの聴解力の養成。

図1 シラバス

第1回	オリエンテーション 平成13年度2級問題 (抜粋)
第2回	平成14年度2級 (絵のある問題)
第3回	平成14年度2級 (絵のない問題)
第4回	平成15年度2級 (絵のある問題)
第5回	平成15年度2級 (絵のない問題)
第6回	平成16年度2級 (絵のある問題)
第7回	平成16年度2級 (絵のない問題)
第8回	平成17年度2級 (絵のある問題)
第9回	平成17年度2級 (絵のない問題)
第10回	平成18年度2級 (絵のある問題)
第11回	平成18年度2級 (絵のない問題)
第12回	平成19年度2級 (絵のある問題)
第13回	平成19年度2級 (絵のない問題)
第14回	前半総復習 中間試験
第15回	平成14年度1級 (絵のある問題)
第16回	平成14年度1級 (絵のない問題)
第17回	平成15年度1級 (絵のある問題)
第18回	平成15年度1級 (絵のない問題)
第19回	平成16年度1級 (絵のある問題)
第20回	平成16年度1級 (絵のない問題)
第21回	平成17年度1級 (絵のある問題)
第22回	平成17年度1級 (絵のない問題)
第23回	平成18年度1級 (絵のある問題)
第24回	平成18年度1級 (絵のない問題)
第25回	平成19年度1級 (絵のある問題)
第26回	平成19年度1級 (絵のない問題)
第27回	学生による授業評価アンケート 期末試験

(iii) コマ数：29コマ（2コマ／週）

(iv) シラバス：

平成13年度（一部）から平成19年度までの日能試1・2級の聴解問題をベースにしたeコンテンツ（図1参照）。前半部分では日能試2級の過去問を扱い、中間試験を挟んだ後半部分では日能試1級の過去問を扱う^(注2)。コース終了時には期末試験を実施する^(注3)。

(v) コンテンツ概要：

コンテンツはメインコンテンツとサブコンテンツからなる。メインコンテンツの各課の構成は、①過去問題（音声）、②解説&シャドーイング（動画）、③復習問題（ディクテーション）の3部構成で、概要は以下の通りである。

①「過去問題（音声）」：問題数357問。うち1級は187問で、総時間数は4時間26分21秒。2級は170問で、総時間数は4時間6分38秒。

②「解説&シャドーイング（動画）」：動画数25本で、総時間数は23時間44分28秒。1動画あたり平均約57分。

③「復習問題（ディクテーション）」：問題数75問。1課あたり3問。

(vi) その他：日能試1・2級の問題（絵のある問題の挿絵等）が掲載されている付属テキストがある。

4. 学習コンテンツ

4-1. メインコンテンツ

学習者は「過去問題（音声）」、「解説&シャドーイング（動画）」、「復習問題（ディクテーション）」の順にアクセスし学習する^(注4)。

(i) 過去問題（音声）

「過去問題（音声）」では、まず当該の過去問題を自力で解答することで、現在の自分の学力を学習者自身が体感することを目的としている。

問題は絵のある問題か絵のない問題のいずれかで、聴解時間は20分前後である。学習者は、図2の画面で音声問題を聞きながら問題を解き、付属テキストに直接解答を記入する。解答が終了すると、次のコンテンツである「解説&シャドーイング」に進むことができる。

(ii) 解説&シャドーイング（動画）

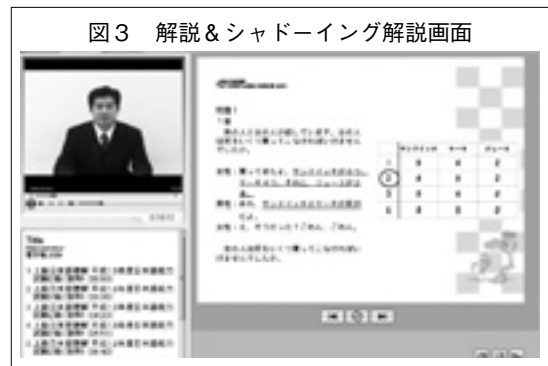
「解説&シャドーイング」では、(i)の解説によって問題への理解を深めるとともに、シャドーイングを行うことによって、さらなる聴解力の向上を目的としている。

このコンテンツは、(i)の音声問題のスクリ

図2 過去問題（音声）画面



図3 解説&シャドーイング解説画面



プトおよび挿絵とそれを解説した動画を、動画編集ソフト「Stream Author」で編集したものである(図3参照)。

このコンテンツは、問題ごとに「試聴」、「解説」、「シャドーイング」で構成されている。学習者は「試聴」で問題の内容を再度確認した後、「解説」で問題のポイントや答えを導くまでのプロセスを学習し、「シャドーイング」では再度当該の問題音声を聞きながら、シャドーイングを行う^(注5)。

なお、学習者には一定以上の学習を義務づけるため、それぞれのコンテンツ所要時間の2/3以上連続視聴しないと、次の「復習問題」に進めないようにアクセス制限をかけている。

(iii) 復習問題

「復習問題」では、ディクテーション問題を解くことによって、正確に聴き取る聴解力の向上を目的としている。

ここでは、(i)で扱った問題の音声と、一か所だけ空欄のある聴解スクリプトが用意されている。学習者は、音声を聞きながらスクリプトの空欄部分に入る言葉をネット上で解答する。答えが正しければ次の問題の画面に移り、正しくなければ次の問題に移ることができない。問題数は各課あたり3問である。復習問題をすべて正解すればメインコンテンツの課題は完了となる。

4-2. サブコンテンツ

サブコンテンツは、メインコンテンツによる学習を側面サポートする役割を担っており、具体的には「聴解の鉄則」、「シャドーイング 口コミ・評判」、「このおもしろい日本語を聴け！」の3コンテンツが用意されている。

サブコンテンツへのアクセスは任意で、学習者はメインコンテンツでの学習の前後にこれらにアクセスし学習する。

(i) 「聴解の鉄則」

「聴解の鉄則」では、11項目にわたる聴き取りのポイントを提示している。これは、平成14年から平成19年までの日能試1・2級問題を解く際のポイントをまとめたもので、これにより、聴解ストラテジー能力の向上を目的としている。

(ii) 「シャドーイング 口コミ・評判」

学習者の中には、シャドーイングに馴染のない者も少なくない。周りに人がいる中で口頭練習する恥ずかしさや練習方法そのものに対する不信感などから、取り組みに躊躇してしまうことも考えられる。このような場合、シャドーイングの効果を教師が説くだけでは必ずしも十分ではなく、実際にシャドーイングをしている第三者の声に触れさせることが効果的である。

「シャドーイング 口コミ・評判」では、シャドーイングの体験談などが書かれているブログサイトの記事の一部をテキストリンクで紹介し、それをクリックすると当該サイトの該当ページに移動するようになっている。これらの記事に触れることにより、シャドーイングに対する信頼感を向上させ、積極的に活動に参加する学習環境を醸成することが目的である^(注6)。

(iii) 「このおもしろい日本語を聴け！」

「このおもしろい日本語を聴け！」では、学習者が興味や関心を持って日本語の聴解活動に取り組めると思われる動画を随時紹介している。

日能試の学習からいったん離れ、日本語を聞くことそのもののおもしろさや快感を体感させることによって、聴解活動に対する統合的動機づけを促し、結果的にメインコンテンツへの積極的な参加、ひいては聴解力の向上に結びつけることを目的としている。

5. 学生管理

先述の4は、学習者が自由にアクセスできるいわば表のコンテンツであったが、本節で述べるのは、コース管理者のみがアクセスできるいわば裏のコンテンツであり、主に「出席管理」、「受講状況管理」、「学習状況管理」に分けられる。

5-1. 出席管理

筆者が本コンテンツで行った授業の出席については、ポイント制による出席管理を行い^(注7)、エクセルにまとめた出席状況を「最新出席率状況」というコーナーで随時更新し、コース上に公開した(図4参照)。

このデータは、学習者だけでなく学習者が所属する各学部学科の留学生担当の教員も自由にアクセスできるようにしている。これにより、時間や場所に制限されることなく担当留学生の出席状況を把握することができる。

5-2. 受講状況管理

Moodleの「参加者」機能では、コース受講生の最終アクセス状況を一覧することができる(図5参照)。

また、学習者それぞれのプロフィールに顔写真や出身地等をあらかじめ登録しておくことによって、学習者の基本情報を簡便に確認することができる。特に履修者数が多い場合、通常の対面授業であれば、顔と名前を一致して覚えるのはなかなか容易なことではないが、Moodleの機能を使うことによって極めて容易に名前と顔を確認することができる。

5-3. 学習状況管理

学習者が現在どのコンテンツまで進んでいるか、あるいは、あるコンテンツにどの程度の頻度でアクセスしているか、さらには、あるコンテンツを完了するまでの所要時間の最長時間、最短時間、平均時間等を、各コンテ

図4 最新出席率状況

個人を特定する情報(氏名、学籍番号)については画像処理を施してある。

図5 コースアクセス状況管理画面

個人を特定する情報(氏名、学籍番号)については画像処理を施してある。

ントの「レポート」をクリックすることによって、コース画面上で確認することができる(図6参照)。

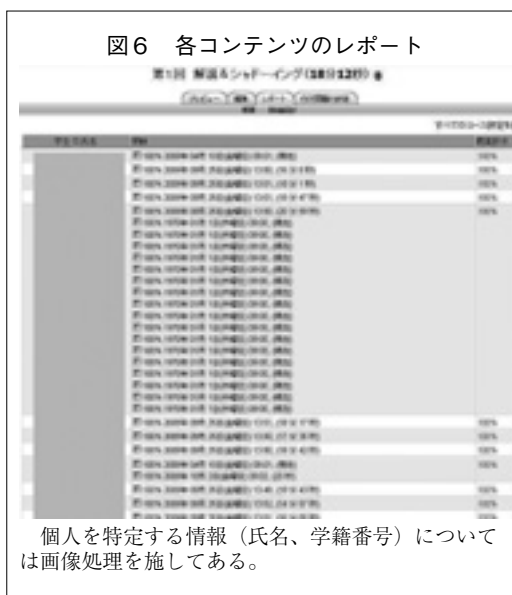
これにより、各コンテンツの量が学習者にとって適当かどうか検証でき、今後のコンテンツ開発の資料にすることができる。

6. 授業実施

5で開発したコンテンツを用い、ブレンディッドラーニングによる授業を実施した(図7参照)。

授業の概要は以下のとおりである。

- (i) 期間：2009年4月10日から7月24日まで。週2コマ。
- (ii) 学習者：55名(うち、中国40名、韓国13名、台湾1名、ネパール1名)
- (iii) 学習者の日本語レベル：日能試2級程度^(注8)。
- (iv) 授業形態：演習形式。PC教室での一斉授業。
- (v) 評価方法：中間試験(2級程度の問題)と期末試験(1級程度の問題)の2回、オフライン形式で実施し、その合計点を成績評価に反映させた。



7. 学習者評価(結果と考察)

Moodleの「投票」機能を使いアンケート調査を行った。有効回答数は49であった。質問項目数は20項目、うち選択式が19項目、記述式が1項目である。

質問内容は、学生による授業評価アンケートに準じたもの([Q1]2項目、[Q2]10項目)、コンテンツに関するもの([Q3]7項目)、およびコース全体に関する感想(自由記述1項目)である。

アンケートの結果、13項目において90%以上、4項目において80%以上の学習者が本授業モデルを肯定的にとらえており、満足度の高い授業モデルであることが認められた。以下、アンケートの詳細な結果と考察を自由記述をまじえながら述べる。なお、自由記述はすべて原文のままである。

[Q1] まず、あなたについてのアンケートに答えてください。

1. あなたはこの授業によく出席していた。

強くそう思う(23) そう思う(23) どちらとも言えない(3) そう思わない(0)

全くそう思わない (0)

2. あなたはこの授業に熱心に取り組んだ。

強くそう思う (14) そう思う (32) どちらとも言えない (3) そう思わない (0)

全くそう思わない (0)

〔Q1〕1は、「強くそう思う」「そう思う」と答えた学習者が全体の約93.9%であった。授業内容が学習者のニーズに合致していたこと、ポイント制による出席管理を行ったことがその要因としてあげられる。

〔Q1〕2は、「強くそう思う」「そう思う」と答えた学習者が全体の約93.9%にのぼり、ほとんどの学習者が熱心に取り組んだ様子が窺える。要因としては、日能試1級対策という学習意欲の高い内容であったこと、また、与えられた課題をこなさなければ授業が進行せず出席扱いにならないカリキュラム設定であったことがあげられる。

〔Q2〕 授業についてのアンケートです。

1. シラバスは、授業の目的・内容・評価方法を明確に示していた。

強くそう思う (8) そう思う (29) どちらとも言えない (11) そう思わない (0)

全くそう思わない (1)

2. 授業の進度は適切であった。

強くそう思う (15) そう思う (31) どちらとも言えない (2) そう思わない (1)

全くそう思わない (0)

3. 授業の内容は興味や関心をひくものであった。

強くそう思う (9) そう思う (36) どちらとも言えない (3) そう思わない (0)

全くそう思わない (1)

〔Q2〕1については、別府大学では日本語教育研究センターで学ぶ学習者については、科目選択の余地がほとんどなく、また期の最初に行われる留学生向けオリエンテーションにおいて科目内容の説明を一括して行っているため、他の日本人学生のようなシラバス配布は行っていない。そこで、今回は「本授業初回のオリエンテーションにおいて、授業の目的・内容・評価方法を明確に示していたか。」という観点から応えるよう言い添えて、アンケートを実施した。

その結果、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約75.5%と、概ね肯定的な回答であった反面、「どちらともいえない」が全体の約22.4%と比較的高い数値を示している。要因としては、授業初回のオリエンテーションがあまりインパクトのあるものではなかったか、あるいは授業が進むにつれて、シラバス情報の記憶が薄れていった可能性が考えられる。今後はサイトの第2層に置いているシラバス情報をトップページに置くなどの工夫が必要である。

〔Q2〕2については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約93.9%であった。授業1回分のコンテンツ量が、学習者にとっては90分でこなす量として妥当であると感じているようである。

〔Q2〕3については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約91.8%であった。これは、日能試1級合格という授業コンセプトに対してのものか、あるいはブレンディッドラーニン

グという学習スタイルに対してのものか、この問いだけでは明確ではないが、いずれにしても概ね学習者の興味・関心に沿った授業であったと言える。自由記述では、以下のような回答があった。

- (1) 日本に来て聴解の能力が少しずつうまくなりました。能力試験問題は実際の試験にも大変役に立ったと思います。そして映像の説明はどうして間違えたのかわかって改選するようになったと思います。半年ぐらい有意義な授業ありがとうございました。
(韓国 女性)
- (2) 聴解の授業について、この方法はいいと思います。会話練習がよくできます。
(中国 女性)
- (3) いままでの授業と全く別の形式で行い、新鮮感、たっぷりである上に、効率のだと思う。。。大変を世話になりました、ありがとうございます。
(中国 男性)

4. 授業はわかりやすいものであった。

強くそう思う (9) そう思う (36) どちらとも言えない (2) そう思わない (2)
全くそう思わない (0)

5. 先生の熱意 (授業の準備・意欲など) を感じた。(1名不回答)

強くそう思う (20) そう思う (25) どちらとも言えない (3) そう思わない (0)
全くそう思わない (0)

6. 先生の話し方は聞き取りやすいものであった。

強くそう思う (15) そう思う (31) どちらとも言えない (3) そう思わない (0)
全くそう思わない (0)

[Q2] 4については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約91.8%であった。動画による解説と同時に、聴解スクリプトをスライド提示しながらキーセンテンスを赤で示したことがこのような結果になったと思われる。ただし、自由記述において以下のような回答があった。

- (4) 1級の聴解全然分かりません、難しいですね！
(中国 男性)
- (5) 聴解のスピードは速すぎ、わかりにくい。
(中国 女性)
- (6) 1級聴解のスピードがとても速い、ある部分の内容に理解にくい。わたしはキーワードの単語に、例えば、線、図、角、服装なんかの問題のキーワード単語に理解にくい。
(中国 女性)

このような回答をした学習者は、指導内容というより日能試1級レベルと自身の学力に大きな乖離を感じていると思われる。

[Q2] 5については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約93.8%であった。授業中の個別指導や学習意欲を引き上げるために行った筆者によるプレゼンテーション等といったオフライン指導が影響していると思われる。自由記述では、以下のような回答があった。

(7) すばらしい授業です。先生の熱意(授業の準備・意欲など)を感じました。(中国 女性)

〔Q2〕6については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体の約93.9%であった。動画解説では、聴解問題よりも若干遅いスピードと比較的簡明な日本語で解説したことが、その要因と思われる。

7. 学生の理解を助けるための各種補助手段(板書・視聴覚資料・配布資料・実習教材など)は効果的であった。

強くそう思う(14) そう思う(29) どちらとも言えない(5) そう思わない(1)
全くそう思わない(0)

8. 先生は学生の授業への参加を促す努力をしていた。

強くそう思う(25) そう思う(22) どちらとも言えない(1) そう思わない(0)
全くそう思わない(1)

9. 授業時間は守られていた。(1名不回答)

強くそう思う(25) そう思う(19) どちらとも言えない(4) そう思わない(0)
全くそう思わない(0)

〔Q2〕7については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約87.8%であった。オンライン教育を導入したことにより、従来の対面授業では困難とされてきた自分のペースで繰り返し学習する機会を提供できたこと、テキスト併用により授業中重要事項をテキストに書く作業ができたこと、また、画面上でパワーポイントによる聴解スクリプトを提示しながら聴解問題の内容を確認できたこと、さらにサブコンテンツにおいて他のサイトや動画を紹介したことなどが影響したと思われる。ただし、「解説&シャドーイング」コンテンツが平均約57分と授業の2/3近くを占めており、授業に冗長さを招いていたケースも散見された。今後は、例えば、動画コンテンツを最大20分程度に細分化しその間に別タスクのコンテンツを挟む等によって、学習者に冗長さを感じさせない工夫が必要である。

〔Q2〕8については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約95.9%であった。ポイント制による出席計算や受験勉強を肯定的にとらえるようオフライン指導をしたことが、このような評価につながったものと思われる。

〔Q2〕9については、「強くそう思う」「そう思う」の合計が約91.7%であった。学習内容がすでにeコンテンツとして用意されているため、授業直前に授業準備をする必要がほとんどなかったこと、また授業中にこなさきれなかったタスクについてはその日のうちに完了すればよいことを予め学習者に伝えていたため、学習者それぞれの学習進度に関わらず時間通りに授業を終えることができたことが、時間管理が徹底できた要因である。自由記述において、以下の意見があった。

(8) 授業楽しかった、時間は守られていました。(中国 女性)

10. この授業の総合評価を記入してください。

大変よい (19) よい (27) 普通 (3) 悪い (0) 大変悪い (0)

[Q 2] 10については、「大変よい」「よい」の合計が約93.9%であった。これはブレンディッドラーニングという授業モデルが概ね学習者に受け入れられた結果だと考えられる。自由記述においても本授業に対する肯定的意見が多くみられた。

- (9) 先生の授業は本当に難しかったです。でも先生と一緒に授業すると 楽しかったです。頑張ります。 (中国 女性)
- (10) 先生のおかげで、日本語力が長足な進歩になりました (台湾 男性)
- (11) 先生のおかげで、聴解が上手になったと思います、ありがとうございます (中国 男性)
- (12) 以前より私の聴解力が上がりました。 (ネパール 男性)
- (13) プログラムがよかったと思います。たまに時間が足りなかったです。 (韓国 女性)
- (14) 聴解が大嫌いだったが、だんだん好きになります。12月の日能試でよい成績をとりたいです。 (中国 女性)
- (15) お疲れ様でした。上級日本語聴解の授業について、このままでよいと思います。いろいろお世話になりました、どうも、ありがとうございました。 (中国 女性)

また、本授業だけでなく今後の学習に対しても前向きにとらえた回答もみられた。

- (16) よかった 今回の試験ができなかった、惜しいこと でも、今から もっとしっかり勉強したい、新学期から よく勉強しなければならない (中国 男性)

さらに、反復学習の重要性を指摘した回答もみられた。

- (17) やっぱり 繰り返して練習するのが大事だと思いました。練習して どんどん知らなかった問題が もっと易しく感じられて本当に良かったと思いました。いろいろ ありがとうございます (韓国 女性)
- (18) 同じところを何回もつづける！それがいいと思います。試験を見るときに緊張せずにうけることができたと思います。ありがとうございます。 (韓国 女性)

反復学習は学力向上のためには欠かすことができないものであるが、一方で学習者の支持がなかなか得られない部分でもある。この点について学習者から肯定的評価が得られたことの意義は大きい。

以上が授業全体に対する肯定的意見であるが、授業全体に対する否定的意見あるいは要望としては以下の2回答があった。

- (19) 文法に比べて聴解の時間が多すぎます。もっと、文法の時間が多ければ、ならないと思います。 (韓国 男性) (注9)
- (20) 聴解は繰り返して練習すべきなので、授業回数をもっと多くなったら、いいと思います。 (中国 男性)

(19)は聴解に比べ文法を苦手とする学習者からの、また(20)は逆に聴解を苦手とする学習者からの回答であると思われる。限られた授業時間の中で、学習者の得手不得手に基づくこのような不満を解消するためには、授業外での自律的な学習にいかにつなげるかが重要であると思われる。

[Q3] 上級日本語聴解の各コンテンツについての質問です。

1. 問題の配列について

このままでいい (21)

各年度別に、2級→1級の順番でしてほしい (24)

各年度別に、1級→2級の順番でしてほしい (3)

中間試験前に1級を、中間試験以降2級をしてほしい (1)

2. 「解説&シャドーイング」について

大変よい (20) よい (26) 普通 (3) 悪い (0) 大変悪い (0)

3. 「復習問題」について (1名不回答)

大変よい (13) よい (32) 普通 (3) 悪い (0) 大変悪い (0)

[Q3] 1については、「各年度別に、2級→1級の順番でほしい」が「このままでいい」をわずかに上回る結果となった。実際、本授業の配列の場合、学習者の聴解力に配慮したコース設定であった反面、コース終了が7月24日でありながら本試験が7月5日(2009年)に行われる関係上、1級の過去問題を十分こなさないまま本試験を迎えてしまうという弊害もあった。今後は、各年度別に2級→1級の配列でも同様の授業を実施し、教育効果等を含め検討を重ねていきたい。

[Q3] 2については、「大変よい」「よい」の合計が全体の約93.9%であり、概ね学習者の評価は得られた。自由回答においても以下のような記述が見られた。

(21) お疲れ様でした>< 聴解の聞き取りがうまくなって本当によかったと思います。先生の動画の説明が詳しく役に立ったんです ありがとうございます ^^ (韓国 女性)

(22) 聴解は 1級の問題がちょっと 難しかったですけど解説を聞きながら理解が出来ます。解説があったら 理解しやすいです 今まで ありがとう ございます (中国 男性)

[Q3] 3については、「大変よい」「よい」の合計が全体の約93.8%であった。実際の授業では、このディクテーション活動でつまづく学習者が多かったが、それでも授業終了より10分から15分早くタスクを終了するケースが多数みられた。今回は「復習問題」を1回あたり3問用意したが、今後はさらに問題数を増やすことで、精聴力の向上を図りたい。

4. 「このおもしろい日本語を聴け！」について

大変よい (14) よい (29) 普通 (5) 悪い (0) 大変悪い (1)

5. シャドーイングの練習について (1名不回答)

大変よい (9) よい (32) 普通 (6) 悪い (0) 大変悪い (1)

6. 「聴解の鉄則」について

大変よい (17) よい (28) 普通 (4) 悪い (0) 大変悪い (0)

7. 「シャドーイング 口コミ・評判」について

大変よい (11) よい (33) 普通 (5) 悪い (0) 大変悪い (0)

〔Q3〕4については、「大変よい」「よい」の合計が全体の約87.8%であった。アンケートの結果からみれば概ね評価が得られたと思われる。ただし、現段階ではまだコンテンツの量が十分とはいえ、今後はさらに動画サイト等を活用してコンテンツの提供を図っていききたい。

〔Q3〕5については、「大変よい」「よい」の合計が全体の約85.4%であった。授業中は一部を除いて、発声を伴ったシャドーイングをしている学習者は見られなかったことから、発声を伴わないサイレント・シャドーイングを行っていた学習者が多かったと予想される。自由回答では以下のような意見が見られた。

(23) いろんな聴解の問題を解いてよかったです。シャドーイングも続けてやるといいものだと思います。半年間楽しかったです。 (韓国 女性)

(24) 聴解は、単語をよく勉強するともっと聞こえるのではないかと思います。そして、ふつうはわたしだけ「シェドウイング」したんですけど、わたしは聴解が一番、苦手からしたんですけど、いろいろ文句が聞こえて、ちょっとなんか、感があったんです。。；； (韓国 男性)

(24)のように、学習者の中には発声を伴ったシャドーイングの重要性を認識し実践しながらも、集団の中で行うことに抵抗を感じた者も少なからずいたと思われる。筆者は、授業中シャドーイングの重要性を繰り返し説いたり「シャドーイング 口コミ・評判」というコーナーを設けたりしたが、必ずしも十分な環境づくりにはならなかったようである。今後は、シャドーイングの学習効果に関する情報や日本語学習者の声を提供するなどして、取り組みやすい学習環境作りを図っていききたい。

〔Q3〕6については、「大変よい」「よい」の合計が全体の約91.8%であった。聴解ストラテジー能力の養成という「聴解の鉄則」の意図が学習者に受け入れられた結果だと言える。自由記述では以下の回答が見られた。

(25) 聴解の鉄則よく使う いい物です。 (中国 女性)

(26) 聴解の鉄則はとても役に立ちました。シャドーイングもう大変よかったです。 (中国 男性)

(27) 鉄則はもっと詳しくほしいです。 (中国 男性)

〔Q3〕7については、「大変よい」「よい」の合計が、全体の約89.8%であった。シャドーイングに関する口コミや評判を書いたブログサイト等を紹介することで、シャドーイングに対する信頼性を高め、積極的に活動させる目的で設けたコーナーであった。ところが、現段階では日本語学習の分野での記事はほとんどなかったため、かわりに英語学習の分野の記事を紹介することとなった。情報提供の方法についてはさらに検討していききたい。

8. おわりにーブレンディッドラーニングモデルの構築に向けて

今回の学習者評価の結果によって、eラーニングによる一斉授業と教師による個別指導を融合したブレンディッドラーニングが、学習者から高い満足度を得る授業モデルであることが明らかになった。

実際、授業準備や教師自身による一斉授業の必要性がなくなったこと、また、授業中個別指導に専念できたことは、授業を実施した筆者自身にとってもストレスが少なかったばかりか、より深い部分で学習者の学習活動に関与でき、有効な授業モデルであると感じた。

さらに、本研究では55名の学習者を対象にしたものであった。55名という学習者数は、通常3クラス分に相当する。コンテンツ開発には確かに相応の費用と労力が必要ではあるが、一度開発したコンテンツは繰り返し利用可能で改良も比較的容易であることや教師の授業負担の軽減、人件費や諸経費等の軽減、コンテンツの学外提供の可能性等を考えあわせると、費用対効果の高い授業モデルであると言えるだろう。

最後に、今後の課題を3点述べる。1点目は、さらなるコンテンツの充実および改良である。問題の量と質の最適化や動画コンテンツの細分化に加え、問題毎に学習者の解答状況が把握できるようにすることによって、より詳細な学力の把握と適切な個別指導を可能にする。2点目は、ブレンディッドラーニングモデルの構築である。オンライン教育とオフライン教育の効果的な連携のあり方をはじめ、特にメンターとしての教師のあり方などはさらなる検討を要する。3点目は教育効果の測定である。効果測定を行うことによって本モデルの有用性と限界そしてさらなる課題が明らかになる。

以上を今後の課題としながら、ブレンディッドラーニングモデルの構築に向け、さらなる実践研究を進めていきたい。

謝 辞

本研究に際し、日本語能力試験問題の使用許諾を日本国際教育支援協会よりいただいた。ここに深謝する。

注

(注1) 日本語教育振興協会が定める「日本語教育機関の設置基準」では、以下のように定められている。

(同時に授業を行う生徒数)

6 日本語教育機関において、日本語の一の授業科目について同時に授業を行う生徒数は、20人以下とするものとする。(出典：日本語教育振興協会 HP:<http://www.nisshinkyo.org/>)

(注2) これは、来日経験がないまま海外から直接入国した学習者の傾向として、文字・語彙や読解・文法に比べ聴解力が極端に低いことが予想されたためである。例えば、平成16年から平成20年までの日能試2級における聴解の平均点を国内と海外で比較すると次のページのようになり、国内と海外では毎年平均で18.32点の開きがある。

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
国内平均	70.9	65.1	64.3	59.1	59.2
海外平均	52.0	44.6	46.5	42.7	45.7
国内－海外	18.9	20.5	17.8	16.4	13.5

(財団法人日本国際教育支援協会他 (2005) ～ (2009) をもとに作成。)

(注3) 中間試験・期末試験はeコンテンツには含めず、市販の教材を使用した。

(注4) その際、(i)が完了しないと(ii)に進めず、同様に(ii)の動画を2/3以上視聴しないと(iii)に進めないようアクセス制限をかけている。これらのコンテンツはすべてMoodleの「レッスン」機能を利用している。

(注5) 通常のシャドーイングではスクリプトを見ないで行うが、ここではスクリプトを見ながら行ってもよいものとした。

(注6) ただし、実際は日本語学習に関する記事はほとんどなく、英語学習のものがほとんどであった。

(注7) ルールは以下のとおりである。

(a)授業開始から開始後5分までに教室にいれば「出席」とみなし0.5ポイント付与する。

(b)授業開始後6分から25分までに教室に来れば「遅刻」とみなし0.3ポイント付与する。

(c)授業開始後26分以降の出席は「欠席」とみなし0ポイントとする。

(d)授業日中に「復習問題」を完了すれば0.5ポイント付与する。できなければ0ポイントとする。

(e)中間試験は初回授業から中間試験まで、期末試験は中間試験後の授業から期末試験までの出席率が80%以上の者を対象とし、両試験の結果を成績に反映させる。

(注8) 入学試験やプレイズメントテストの結果によって判定した。

(注9) 本授業実施中、他の時間に同様のスタイルで読解(週2コマ)と文法(週1コマ)の授業を行っていた。

参考文献

井上博樹・奥村晴彦・中田平(2007)『Moodle 入門』海文堂

加藤由香里(2008)『日本語 e ラーニング教材設計モデルの基礎的研究』ひつじ書房

財団法人日本国際教育支援協会・独立行政法人国際交流基金(2002)～(2008)『日本語能力試験
試験問題と正解 1・2級』平成13年度～平成19年度 凡人社

ジョシュ・バーシン(2006)『ブレンディッドラーニングの戦略』東京電機大学出版局

新城直樹・宮田公治(2009)「Moodle を利用した Web ベースの自習用漢字読みクイズの構築」

日本語教育学会『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.301-302

中溝朋子(2009)『日本語未習者のための渡日前学習用 e-learning 教材』日本語教育学会『2009年度日本語教育
学会秋季大会予稿集』p.11